

令和3年度 さいたま市立南浦和小学校 自己評価書

校長 小野圭司 印

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 学校課題研究での体育科を核とし、新学習指導要領に基づいた授業改善、指導方法の工夫に努め、分かる授業を展開し、基礎学力の向上と活用力の育成、体力の向上を図る。－各教科等の授業の状況、教職員の意欲・資質及びその向上に向けた取組状況
- (2) 生活目標や学年・学級目標を基に実態に応じた子どもの基本的な生活習慣の定着を図り、積極的認知を意識した児童理解を進め、いじめのない笑顔あふれる学校を目指す。－いじめの防止等の状況、生徒指導の状況、教育相談の状況
- (3) 道徳の授業の充実やスマイル週間の確実な実践を図り、子どもの心の安定及び育成を目指す。－各教科等の授業の状況、児童の状況、教育相談の状況
- (4) 保護者・地域への積極的な情報発信と意見の活用と、地域の教育資源の活用を推進し、学校と保護者・地域との連携を強化する。－学校に関する情報公開の状況、学校と保護者、地域住民との連携の状況
- (5) 「学校における働き方改革」の視点から、行事や業務の精選、在校時間の管理や教職員が児童と向き合える時間を確保する。－働き方改革の状況

2 評価結果について

- ・「わかりやすい授業」について肯定的な回答をした児童は95%以上となっている。国語、算数を中心に校内研修を通じた授業改善、指導方法の工夫の効果、本校独自の教師力パワーアップ講座の効果等が定着している結果であると考え。基礎学力向上の取組において、「家庭学習の定着」に力を入れてきた。次年度以降も定着、改善させ、成果を上げたい。また、体育の授業を通して、体力の向上にも努める。
- ・「いじめ防止の取組」「児童の心の安定や育成」について保護者、教職員ともに肯定的な回答が89%以上となっている。生徒指導に関する情報共有、いじめ定期アンケートやスマイル週間の取組等、組織的な体制が機能し、展開されていると考える。基本的な生活習慣の定着については、昨年度改善傾向となっていた「あいさつ」「言葉遣い」については肯定的評価に若干の減少が見られたため、今後も課題といえる。また、児童の安全面の配慮から上履きリユースの取組を継続したり、校庭遊びでのけがの危険を防ぐため、遊び方や遊ぶ場所等について改善したりしてきている。一方で「児童の悩みへの対応」の肯定的な評価が85%以上となり、児童のささいな変化への早期発見・早期対応ができていていると考えられ、引き続き改善を図る。
- ・「保護者への情報発信」について、昨年度から引き続き学校HPをリニューアルしたことで、肯定的な回答をした保護者が93%程度と改善傾向となった。「地域や保護者の思いや願いへの対応」「地域の教育資源活用」については肯定的な回答が80%を超える程度にとどまり、継続的な課題であり、コミュニティ・スクールの実施と合わせて、地域との連携が課題である。トイレ環境の改善は、東側トイレの改修工事が行われきれいになり、その状況を維持していくよう努めている。
- ・「学校における働き方改革」について、86%の職員が肯定的な回答をしている。本校では、資料の事前配付や日報での情報共有、会議内容の精選等による会議時間の短縮、運動会の実施方法の工夫、長期休業中の年休取得の促進や連続した休暇取得への働きかけを行っている。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・校内研修を中心に、「主体的な学び 対話的な学び 深い学び」を取り入れた授業改善を図る。家庭学習を充実させるとともに、「基礎学力パワーアップタイム」で、漢字、四則計算等の徹底やタブレット使用によるドリルパーク等の活用を計画的に行うとともに、教科担任制の専門性を生かした授業力の向上により、基礎学力の向上を図る。また本校の課題研修の教科である体育の授業改善を通して、本校児童の課題である体力の向上を図る。
- ・本校独自の小・中一貫教育の取組や生徒指導、異学年交流「ふれあいタイム」を通して、あいさつと言葉遣いを重点に指導していく。特に登下校時のあいさつに力を入れた取組を実施する。「心を潤す4つの言葉」や丁寧な言葉遣いの指導を重視し、道徳教育の充実と併せて思いやりのある言葉遣いができる児童の育成に力を入れる。
- ・PDCAサイクルによる学校評価等を活用し、地域や保護者の思いや願いを集約し、必要な改善を行う。地域人材の教育課程への位置付けを下に学校地域連携コーディネーターを窓口として計画的に活用する。情報発信では、各種便り、HP（持続可能な方法による定期更新）、校内掲示を工夫改善し、効果的な情報公開を実施する。また、コミュニティ・スクールの実施を通して、本校児童に身に付けさせたい力である「チャレンジする心」を地域との連携を密にして、計画的に育成していく。
- ・働き方改革に関しては、全教職員が勤務時間や退勤時刻を意識した働き方、行事や業務の精選を意識働き方等を見直すことができるように意識改革をしていく。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。